

令和3年度 第2回千葉市立博物館協議会議事録

- 1 日 時：令和4年3月11日（金） 午後1時30分～3時00分
2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室
3 出席者：（委員） 副委員長他 3人出席
副委員長 小島 道裕
委 員 広田 直行
委 員 鈴木 一彦
委 員 小林 さおり

（教育委員会）

生涯学習部 佐々木部長

同部文化財課 佐久間課長、森本主査

（事務局）

同部加曾利貝塚博物館 神野館長、後藤副館長、長原主査

同部郷土博物館 天野館長、芦田副館長、錦織主査

4 議 題

- (1) 令和4年度の予算（案）と事業予定について
(2) その他

5 議事概要及び議事結果

- (1) 令和4年度の予算（案）と事業予定について
加曾利貝塚博物館、特別史跡加曾利貝塚史跡等整備事業、郷土博物館の令和4年度
予算（案）と事業予定について説明し、各委員から意見が出された。
(2) その他
文化財課より、博物館法の一部を改正する法律案について説明した。

6 会議経過

錦織主査の司会進行により会議が開会。会議資料の確認及び運営規則第3条第3項
の規定により、この会議が成立していること、千葉市情報公開条例第25条に基づき
会議を公開していることを告げた。続いて佐々木部長が挨拶を行い、萩原委員長が欠
席のため、以後、小島副委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）令和4年度の予算（案）と事業予定について

< 説 明 >

加曾利貝塚博物館から令和4年度の予算（案）と事業予定について説明を行った後、
文化財課より特別史跡加曾利貝塚新博物館基本計画及び令和4年度の史跡等の整備につ
いて説明を行い、その後、郷土博物館から、令和4年度の予算（案）と事業予定につ
いて説明した。

< 質疑応答等 >

小島副委員長 ただいま、事務局から説明があったので、これからは、委員から質問や意見をいただきたい。二つの博物館があるので、それぞれ分けて検討していきたい。では先に、加曽利貝塚博物館について質問や意見をお願いしたい。

広田委員 基本的なことだが、清掃委託や草刈業務委託とあるが、規模はどのくらいか。

後藤副館長 博物館という名前になっているが、加曽利貝塚縄文遺跡公園ということで、公園全体が対象となる。今回近隣からの苦情もあり、草刈りの予算を若干増やしている。だいたい年3回くらい実施している。他に公園外で臨時駐車場の敷地についても草刈りを行っている。

広田委員 他の行政で資金の確認を手伝っているが、金額だけが出ていても規模ややり方によって値段が変わってくるので、その点はしっかりとおさえておいた方がよい。後で出てくるデザインビルドでは規模と管理委託が関係してくる。予算組みではそこが重要な点だと思うので、確認してもらえればと思う。

あと、もう1点、加曽利貝塚のロケーションとその変遷のようなものは整理されているのか。貝塚のことだけはずいぶんやられているが、当時の地形やロケーションがどうなっていたのかを提案できれば、見に来た人たちはもっと臨場感を持つことができる。また、そのロケーションが時代とともにどう変遷してきたのかがわかればさらにリアルなものになるのではないか。

あと新博物館のデザインビルドについて、たぶん市の行政の建築部門でだいぶ練られているとは思いますが、私が建築の専門として申し上げますと、デザインビルドは建築界では時期尚早で、あまり制度として確立できていないところがある。確かにコスト面のメリットはあるのだが、メリットを出すためにデメリットをどう排除するかが重要となる。そのためにはアドバイザー業務委託が非常に重要で、そこでデザインビルドのやり方をしっかり押さえる必要がある。千葉県はデメリットが非常に大きいとして、まだそこには踏み出していない。そのあたりは少し丁寧におさえた方がよい。

神野館長 景観のことについてだが、現在の展示の中で、縄文時代の市内、県内の遺跡のあり方や地形の変化については展示している。また、まだ実験段階ではあるが、より分かりやすい3Dを使った当時の景観復元を試みているところである。こうしたものを積み重ねて新博物館に繋げていければと考えている。

広田委員 地図だけでもあるとだいぶ違うと思うので、ぜひ準備していただきたい。

鈴木委員 郷土博物館も同様に感じたが、この予算の中で広報に当たる部分はあるのか。維持管理事業には含まれていないようだが。現在のWEBサイトはおそらく千葉市のWEBサイトを使っていると思うが、自治体のサイト内にあると限界もあるので、いずれ独自のサイトが必要になってくると思う。特に新博物館ができるのであれば、今の規模ではあまりアピールしない可能性がある。今後予算の中でWEBサイトに限らず、その他の広報関係についても考慮していくべきではないか。

小島副委員長 予算関係で一つ伺いたい。現在ある博物館と新博物館の整備と両方の事業が行われているが、新博物館の方は史跡等の整備の中で行っているということなのか。

佐久間課長 史跡等の整備の中で、史跡内の整備によって利便性を向上させるとともに、博物館は史跡外に移転するので、それを一つにまとめた形で予算計上している。4ページの資料でいうと（1）便益施設新築工事と（2）復元住居製作設置は史跡内の整備、（3）新博物館の整備は史跡外ということになる。予算の内容としては史跡の内外のものが混在している。

小島副委員長 新博物館は史跡外だが、史跡等の整備として行っているということか。将来的には当然新博物館に移行するわけだから、予算も新博物館の予算というものができると思うが、それはいつ切り替わるのか。

佐久間課長 現在の予定では令和9年の秋に新博物館の開館を目指している。新しい博物館がオープンした後に、今度は古い博物館の建物を解体撤去する予定である。それまでは今の博物館で開館を続けることになる。

小島副委員長 先ほどスケジュールの説明があったように2027年度の開館をもって、その時点で新博物館に予算も含めて移行することになるということによろしいか。現状の博物館の予算と2桁くらい違って、もう少しどうにかならないものかと思った。資料収集保管費が9万円で、これでも増えているというのがちょっと驚きである。史跡等の整備でこれだけ莫大なお金が付いているのであれば、そちらから何かできることはないのかとの感想を持った。

小林委員 学校の立場から申し上げますと、すごく歴史好きの子どもは多くて、そうした子どもは縄文時代の事とか千葉常胤の事とか鎌倉時代のことなどを自分からどんどん調べてまとめて提出したり、タブレットで情報を集めたり

している。ただ、加曽利貝塚がこれほど身近にあり、縄文時代のすばらしいものが千葉市にあるにもかかわらず、縄文時代は縄文時代、加曽利貝塚はちょっと行って見学する場所というように、それぞれが繋がっていないのが現状である。『千葉常胤公ものがたり』は子どもたちにもたいへん好評で、ここから歴史好きになるという子どもも広がっている。加曽利貝塚でも先ほどあった広報活動の中で、例えばQRコードなどを入れてもらえれば、子どもはそこからどんどん入っていく。せっかく一人一台タブレットがあるので、そうしたことをしてもらえれば学校現場としてはありがたい。

広田委員 私も小林委員の意見に同感で、いままでの活動がポイントに絞られていて、ポイントを深く掘り下げるということは良い部分でもあるが、弊害もある。今回歴史読本をはじめて通史的な流れで出していただき、すごく分かりやすいと思って概観していた。こういうものの中で、この部分ということ位置づけてもらえると、千葉氏が生きた時代がどういう位置づけになっているかがパースペクティブに理解できるのではないかと思う。その意味ではこれはよかったと思う。さらにいえば、千葉県もしくは房総の中で千葉市がどのように変遷してきたのか、県域と今の千葉市の関係がわかればもっと変遷が分かりやすくなるのではないかと感じた。

鈴木委員 新博物館の基本計画について、4章の展示計画については前からお話をさせていただいて非常によいのではないかと考えている。ただし、旧来の常設展示では、一回展示してしまうとその後あまり変えないことが多かったので、予算もそれほど必要なかったのだが、没入型展示で投影型となると、最初に制作した映像が何年かすると飽きられてしまうということが起こる。アミューズメントパーク化していくとどうしても設備にお金がかかり、コンテンツを新しく作るための予算が無いといったことになりかねない。毎年かかるものではないかもしれないが、積み立てておくなりしないと改修できずに何十年も同じ映像を流し続けたり、プロジェクターなどが故障して真っ暗になっているということが起こり得る。最初に建設するときのお金も重要だが、維持費がかなりかかることは十分に想定しておいてほしい。

小島副委員長 それは私も気になっていて、博物館を造る時には莫大な予算が付くので色々な装置とか業者の提案に乗りがちだが、後が続かない。その装置が古びてしまったり、壊れてしまうなどで、それこそ持続可能性のない展示になってしまうということが往々にして起こる。先々のことをよく考えて、作った時だけが展示ではないという視点が必要だ。私のいる国立歴史民俗博物館でもリニューアルでたいへん苦しんでいるが、これはどうしても定期的にやっついていかないとどんどん古びて、内容的にも時代遅れになってい

く。だからスタートのところでよく先々のことまで考えておいた方がよいと私も思う。また、基本計画はずいぶん手を入れてよくなったと思っているが、度々申し上げたことだが、やはり縄文の村というのが、集落とか家屋に限られすぎている。先ほど広田委員からロケーションという話があったが、もっと地域的なもの、領域的なものに目を向けないと、小林委員からもあったように、本当にポイントだけのものになってしまう。地域社会としての縄文とは何だったのかということをやはり通史の中に位置づけていかないと、加曽利に行って変わった体験をして終わりましたということになりかねない。それは本来の趣旨ではないと思う。これも度々言っているが私の理解が間違えでなければ縄文の集落はだいたい2 kmに一つくらいの割合であるそうなので、だいたい小学校の校区や中学校の校区を思い浮かべればよい。そのエリアの中で食べていかなければならないので、食糧をどうやって調達したとか、そういうことが分かる博物館でないといけない。そうでなければ加曽利にはこんなに珍しいものがある、こんな珍しい体験ができますというテーマパークで終わってしまう。中近世の村も各村の単位ではそれほど縄文時代と違わない。結局同じエリアの中で人は集団を作らずずっと生きているのだが、人口はどんどん増えていく。ではなぜ多くの人々が暮らせるようになったのかというところが SDGs ではないかと思う。これは基本計画なのでそこまで盛り込む必要はないと思うが、読んでいてその辺りがあまり伝わってこなかった。やはりせっかく千葉県には加曽利貝塚博物館と郷土博物館の両方の博物館があり、読本も作ったので、千葉市の通史を意識してもらえるとよいかと思う。

とにかくこのご時世で新しい博物館ができるということはすばらしいことで、日本中に誇ってよいことだと思う。ぜひすばらしいものにしてもらいたい。

広田委員 デザインビルドの中には展示も含めているのか。

佐久間課長 DBO (Design-Build-Operate) 方式ということで、Oをどこまでやるのかはこれから決めていくことになる。少なくとも清掃や警備などは委託することになる。展示については、更新頻度も含めてどうするのかということは、今後検討することになる。

広田委員 初期のイニシャルは展示も含むのか。

佐久間課長 展示も含まれている。更新する予算については、何年ごとに組み込むのかなどはこれからだが、イニシャルコストは入っている。

広田委員 そうなるとなおさら先ほどの小島副委員長の指摘は重要である。

小島副委員長 最初からきちんとコンセプトを持って臨まないと、展示業者に主導権を取られると後で本当に困ることになる。準備室のメンバーがそうした内容はきちんと考えて提案していかなければならないわけで、当然今の博物館が母体になると思うが、新博物館は規模も大きくなり人も増やさなければならぬだろう。準備室ができる前に業者から提案があったりするとその後も業者主導になってしまう危険性があるが、そのあたりの見通しはどうか。

佐久間課長 今の市議会に組織改正案を提出しており、人数はまだ未確定だが、来年度から文化財課の中に新博物館整備室を新たに設置して、次年度からの事業に対応する予定である。

鈴木委員 準備室の人員は予算とも関連すると思うが、小島副委員長は何人くらいの準備室スタッフが最低限必要だとお考えか。

小島副委員長 何人ということはないが、多い方が良い。

広田委員 極論すれば一人でも優秀な人であればよい。デザインビルドを千葉市の建築部門の方でどのように理解して、運用しようとしているのか。おそらくどこかの成功例を視察して、それを真似ようとしていると思うが、千葉県内では習志野の市庁舎がデザインビルドでやっている。デザインビルドの一番の弊害は予算をオーバーしたときにどこで削るかということだ。最初の提案よりもどんどん削減されてくる。だいたい50億の予算だったら、一般的には100億くらいの絵を描いてきて、デザインビルドの中でVE (Value Engineering) をかけていく。それがあまりにも現実離れした最初の提案が出てきてしまうと運営費や展示品といったものから削減されることになり、バランスが悪くなる。設計と施工と展示という最初の予算バランスをどうやって確保するのか。それを設計者に任せてしまうと決してよい結果にならない。そのハンドリングをするのがたぶん準備室であって、その準備室とアドバイザーがどこまで詰めていけるのか、最初の段階が重要であると思う。ぜひそのあたりを留意して慎重に進めてほしい。

小島副委員長 だいぶ意見が出たので参考にしてもらえればと思う。では次に郷土博物館についての質問や意見をお願いしたい。

小島副委員長 まず、私から一つ伺いたい。いよいよ展示リニューアルの調査検討をはじめるということで、結構だと思う。これも業務委託となっているが、具体的にどのように検討するかを伺いたい。

錦織主査 2026年の開府900年に向けて、展示リニューアルを考えている。今後、

基本計画・実施設計を行った上で工事を行う予定だが、その前段階として、現状の館の課題や先進の事例、計画の前提となる方針、展示計画や規模などを委託して調査を行い、どのようにするのが望ましいかを考えていく。具体的には3案くらいを作り、比較検討することを考えている。平成31年度に当協議会からいただいた答申にもあるとおり、今回は大きな変更はしないで小規模な修繕にとどめながら常設展示における通史展示を実現すること、また、展示ケースや照明が古い、特別展示室が無いなどの現状を改善する手法などについて検討するのが今回の予算の内容である。

小島副委員長　やはり基礎的な調査研究は非常に大事なので、そうしたところでお金を使ってもらえればと思う。これは平成31年の答申にも出ていることだが、やはり通史展示を実現することが重要で、近世が欠落したままでは現在の千葉市を歴史的に理解することは難しい。中世からいきなり飛ぶというのはやはり無理である。ジオラマを作ったらどうかという話もあったが、よく詰めていただきたいと思う。加曾利貝塚博物館で縄文の村のことをこれだけやっっているが、中世になると千葉常胤になってしまうというのは、やはり展示の一貫性に欠けると考える。子どもに理解しろといっても通史的な理解には至らないことになる。縄文の村のことをやったら中世の村のこともやらないと何が影響しているのかということがよく分からなくなってしまう。そのあたりの整合性はぜひ取っていただき、本当に通史的な理解ができる両館あわせての機能をいうものを実現してほしいと思う。

小林委員　コロナになって校外学習でなかなか県外に行けなくなり、市内でなんとかしようと思っている中で、郷土博物館という案も出るのだが、行ったとして何を見て、どうしたらいいのかがわからず、取りやめになることがある。個人的にここを好きな子がたくさんいて、私も好きなのだが、もう少し分かりやすく、小学生が見ても分かるような、実際に触ったり、クイズを解いたりできるようなところがあるとよい。ぜひここに校外学習に行ってもらいたいと思うので、リニューアルの際に考慮してほしい。

天野館長　まったくその通りである。我々としても子どもたちがここにきて楽しんで歴史をわかるようになってもらえるのか。先ほど小島副委員長からあったように大きな時代の流れの中で、人の生活が分かってもらえるのかというと、現状はそうなっていないと感じている。だからこそ通史展示を含めて子どもたちにもわかってもらえるようなリニューアルをしたいというのが我々の強い思いである。ただ、リニューアルまでには時間もかかるので、現状の中でも子どもたちに少しでもという考えから、昨年度からエデュケーター2人に、小・中学校から本館に入ってもらった。今年度は実際に出前授業も約1,000人の子供たちに対して行い、たいへん好評をいただいている。例えば、灯りの授業で、行灯から今の電灯になったらどれだけ違う

のかなどを学校へ行って授業をした。あと館内でクイズを解きながら見学できるような学習シートを作成し、ホームページにたくさん用意している。なかなか宣伝が行き渡らないのか、知らない方もいまだに多いが、館のホームページの教育活動というところを開いてもらえれば館内で子どもたちに使ってもらえるプリントや博物館周辺での学習プログラムなども掲載している。ゆくゆくは子どもたちも分かるような文章もリニューアルに合わせて作っていきたいと思っている

鈴木委員

たぶん学校の先生方はたいへん忙しくて博物館に何があるのかとか、どのように教材として使えるのかということが直ぐには分からない場合があるのではないかと。また、自分で調べなければならなくなったりすると忙しい先生方の負担が大きい。エドゥケーターの方が配置され、出前授業などもしているのでは、かなり良くなっていると思うが、個別の先生方が使いやすくなるガイド類をもっと整備していくのがよいと思う。その際、教育指導要領との関連が分からないと使いにくいと思われるので、先生が授業に使いやすいということを重視するとよいのではないかと。こういった展示があつてそれがどの単元に使えらるというもののガイドがあると直ぐに使えて、校外学習で博物館に行ったとしてもそれほど困らないのではないかと。

天野館長

実は、出前授業として、例示してあるものは小・中学校でそれぞれ9つずつあり、指導案も載せている。来てもらうのは大変だが、指導案を見て、それを使って実際に授業をした先生もいる。柏市など他市にもいたと聞いている。少しでもこうしたことが広がっていくような活動を工夫していきたい。また、「昔の道具」を学ぶための「貸出セット」のようなものを作った方がよいのではないかとアイデアも出ているので、それらを籠に入れておいて、それを貸し出して授業で使えるものをいくつか用意しておくだけでも借りに来てもらえるのではないかと考えている。先生方も忙しいので、ちょっと行って借りてこようと思える工夫をしていかなければいけないと思っている。

鈴木委員

貸出セットはよい考えだと思う。貸出セットに指導案が付いているとなお良い。なるべく先生方の時間が節約できる方法を考えていけばよいと思う。

小島副委員長

学校対応は博物館にとって非常に重要な部分であるが、当然加曾利貝塚博物館でも同じような課題を持っていると思う。エドゥケーターという教育担当の職員は必ず館に属さなければならないというわけでもない。つまり共通の仕事をする人がいてもよいのではないかと。欧米だとエドゥケーターというのはかなり独立性が高く、むしろそうやって活動している人が多いのだが、そうしたことがあつてもよいかもしれない。結局学校の方

としては求めるものに違いはない。各館ごとの課題はあると思うが、必ずしも一つの館だけで対応するというよりも両館力を合わせてやっていくことがあってもいいのかなと思った。

天野館長 本日は博物館協議会なので2館だが、他に埋蔵文化財調査センターがあり、そちらでもエデュケーター活動をしたいという思いがある。なかなか予算的なこともあって実現できていないが、考古学的なものを扱っていく必要があるとの思いがある。当館のエデュケーターもいかんせん週2日間ずつしか勤務がないので、小学校はそれだけで手一杯な状況である。これが週5日勤務になればかなり広く考古学的事業や加曽利貝塚の内容もできるようなと思う。

小島副委員長 埋蔵文化財調査センターは過日発掘名品展をされていて、同じような機能を持っているので、当然エデュケーター的な仕事の需要はある。そのあたり市で歴史文化全体に関わる教育普及の職員ということでぜひ考えてほしい。新博物館の人員配置の中でもこうした職員が必要ということになっていたと思うが、やはり専門性の高い職業なので、社会教育の専門的な知識・能力の見識のある人でないとなかなか務まらない。そのあたりは今後の採用計画の中で、もちろん学校対応なので学校の先生経験者ということもあるが、学校教育と社会教育というのは根本的に違うこともあるので、そこはきちんと専門性を評価できるような形で採用を進めていただきたいと思う。

小林委員 私が気になっていたことは、郷土博物館の外観が天守閣で、史実とは違うということだ。子どもたちの頭の中では千葉城はこれとなっていて、江戸時代に建てられたという勘違いが完全にある。本当は、ここは中世の城跡でそうした間違いを正していかなければいけないのだろうが、なかなか追いつかない。そうした子どもたちに正しい知識を伝える教育普及活動というものも学校としては望んでいるところである。

天野館長 50年前の建物なので、当時、文部省からも歴史的な事実合わない建物だと言われたと聞いている。当初、ここは博物館ではなく観光施設だったのだが、それを博物館に転用しているので色々な問題が生じている。ただ、そんなことも言ってもらえないので、この中でも先ほどのような課題に答えられるようにしていかなければならないと強く思っている。

鈴木委員 歴史研究の上でも、実際の中世の千葉城がどのような建物だったのかということが、まだあまり分かっていないのではないと思う。ある程度分かっている、時代考証が可能であれば、そうしたジオラマなどを見せれば分かりやすい。それができないために、大人も含めて誤解したままになっ

てしまっている。

小島副委員長　そこは国立歴史民俗博物館の課題でもある。今の展示はかなり昔のイメージでジオラマを作っているので、リニューアルしなければいけないとずっと課題になっている。来週から中世武士団という展示を行うが、これは実はリニューアルをにらんだ展示であり、中世の武士の館やくらしなどがどうだったのかにかなり焦点を当てている。どうだったという絵を簡単に描けるものでもないが、本来の問題意識はそこにある。ただ学会的にもだいぶイメージが変わってきていて、描こうと思えばある程度の絵は描ける。そういったところも取り入れて、誤解のないようなものをソフト的にも進めて行ってほしい。

天野館長　本日お配りした千葉市歴史読本『史料に学ぶ千葉市の今むかし』もそれぞれテーマ学習のようになっているが、通史展示を行うときのポイントという視点に活かそうという意図でテーマを選んでいる。これも下敷きの一つにはなっていくのかなと思っている。

小島副委員長　このような通史的なものを作ったことはよかったと思う。ただし、ポイントであるということが問題でもある。ポイントにするとポイントしか見なくなり、ポイントごとの繋がりがわからない。例えば加曾利のことは分かった。では他はどうなのかということが分からない。自分が住んでいるところとどういう関わりがあるのかが分からない。このようにポイントであることの弱点もあるので、面として当時の社会がどうだったのかということが重要である。村も当然一つの村だけではなく、村が複数集まって縄文時代の地域社会というものがあつたはずなので、そういうものがイメージできないと結局通史学習といってもポイントの知識だけを寄せ集めてイメージを作ったようになって、自分の今住む地域社会の様子と何が違うだろうということがつかめなくなる。言うのは簡単だが、歴史学もそうしてポイントごとに分かることを積み重ねてきた。しかし、SDGsと言い出したら、もうそれでは済まなくなってきた。世の中これからどうするのかという全体性、面的な地域社会をこれからどう考えるのかということに寄与できないと、これは自戒を込めて言っているのであるが、研究も博物館もそういったところで、もう少しちょっと今までとは違う発想で行かないといけないと思っている。

鈴木委員　展示のストーリーを作る時に少し視点を変えていくということが必要だと思う。この本はこれで面白いが、展示の際には全体が見えるような工夫も必要だ。

小島副委員長　やはりジオラマとかがよい。先ほど広田委員からもあつたようにまず地

図で、面として捉える。そして関連性がその中で見ていけるとよい。だからピンポイントだけの知識ということを変更していきたい。

広田委員　　今、ブックレット『千葉常胤と13人の御家人たち』を面白いと思って拝見していたのだが、ここに載っている7人の勢力エリアがどうだったのかということが書かれていない。図などのイメージできるものがあるって、この二人は隣で接していて、争っていたんだなとわかるものをお願いしたい。

小島副委員長　　パネル展も地図が評判良かった。南関東の地図で、それぞれの勢力圏を示していた。

天野館長　　ブックレットにも小さくて見にくいですが最初にその地図を載せている。

小島副委員長　　そういう発想がよいと思う。人物だけ取り上げても誰がどこにいて、何をしてたのか全然わからない。

広田委員　　エリアが分かればよいと思うが。

小島副委員長　　そこまではなかなか難しいが、できる範囲でこういうことをしていくとイメージが作れてよいと思う。

小島副委員長　　時間をだいぶとってしまったが、議題1についてはよろしいか。

鈴木委員　　一つよいか。先ほどのエデュケーターの話であるが、確かにアメリカなどではエデュケーターが外部にいて、コンサルタントのように独立して仕事をしている場合がある。一時期だけ、もしくは一つのプログラムだけで博物館に雇われたりしている。日本の場合はそういった独立のエデュケーターが少なく、委託できる人がなかなかいないので、難しいと思う。ただ、市が色々な直営の博物館施設を持っているので、市の教育委員会にそうしたエデュケーターがいると全ての施設を使ったプログラムが作れて、資源の有効活用になると思う。エデュケーターを個々の博物館から離して考えてもよいかもしれない。

小島副委員長　　ではこれまでの意見を参考にして、今後の事業を進めていただきたい。

議事（2）その他

< 説明 >

佐久間文化財課長より、博物館法の一部を改正する法律案の概要について説明した。

小島副委員長　　博物館の登録要件の基準は都道府県の教育委員会が定めることになるの

か。

佐久間課長 千葉市の場合は政令指定都市なので、千葉市内の分については市が基準を定めることになる。

鈴木委員 このように登録の見直しが制度として組み込まれるようになると、ずっと登録博物館でいられるわけではないということになる。どういう基準を設定するかは省令にもよるが、これが今後展示活動などに影響してくるのではないかと思う。今後私自身も改正については勉強していきたい。

小島副委員長 ある意味チャンスかもしれない。自分で基準を作れるわけなので、よい基準を作って、それに見合ったよい博物館をつくれれば誰も文句はないはずである。趣旨としては良い方向へもっていくために改正しているはずなので、内実の伴ったものになるよう千葉市として努力してもらいたい。他に何かあるか。

天野館長 次回の協議会は夏頃を予定している。後日日程を調整させていただくのでご協力をお願いしたい。

小島副委員長 他に何かあるか。なければ、本日の議事はここで終了する。

問い合わせ先 千葉市立加曽利貝塚博物館
TEL 043-231-0129
千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231